

Oracle			IIM					
V\$ビュー	フィールド	オンラインマニュアル記載項目の意味	レコード説明	レコード番号	レコード名	フィールド名	フィールド説明	備考
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	DOMAIN	ドメイン名	
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	DBNAME	DB名	
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	計算値 基データ: CPU used by this session	ユーザー・コールの開始から終了までにセッションが使用するCPU時間(10ミリ秒)。ユーザー・コールが10ミリ秒以内に完了する場合、ユーザー・コールの開始および終了時刻は同じになり、この統計には0ミリ秒が追加される。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	CPUUSE	プロセッサ使用率	
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	consistent gets	ブロックの読取り一貫性が要求された回数。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	CONGET	コンシステントGET数	
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	consistent gets from cache	バッファ・キャッシュからブロックの読取り一貫性が要求された回数。これは、consistent gets統計値のサブセットである。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORCONSGETCACHE	バッファ・キャッシュからブロックの読取り一貫性が要求された回数	Acquire, Control Centerのバージョン9.3以降かつ、CSV05L15R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	db block gets from cache	バッファ・キャッシュからCURRENTブロックが要求された回数。これは、db block gets統計値のサブセットである。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORDBBLGETCACHE	バッファ・キャッシュからCURRENTブロックが要求された回数	Acquire, Control Centerのバージョン9.3以降かつ、CSV05L15R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	db block gets	CURRENTブロックが要求された回数	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	DBGET	DBブロックGET数	
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	計算値 基データ: db block gets+consistent gets	ES/1計算値:論理I/O数	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	TTLLOGIO	論理I/O数	
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	execute count	SQL文を実行するコール(ユーザー・コールおよび再帰コール)の合計数	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	EXECCNT	総SQL実行回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	global cache converts	グローバル・キャッシュ内のロック変換数	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	GLOBCHCNVS	グローバルキャッシュ内のロック変換数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力。 Oracle12c R2では廃止
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	global cache convert time	Oracle Real Application Clustersの場合のみ: ロック変換中の合計経過時間	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	GLOBCHCNVTM	ロック変換中の経過時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力。 Oracle12c R2では廃止
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	global cache gets	取得されたロックの数	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	GLOBCHGETS	ロック取得数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力。 Oracle12c R2では廃止
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	global cache get time	待機の合計時間。この値を「global cache gets」で割ると、1つの要求当たりの待機時間が算出される。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	GLOBCHGETTM	ロック待機時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力。 Oracle12c R2では廃止
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	logons current	カレント・ログインの合計数。V\$SYSSTATでのみ有効。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	LOGON	ログオン数	
V\$VERSION	BANNER	コンポーネント名およびバージョン番号	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORMAJVER	Oracleメジャーバージョン	Control Centerのバージョン9.3以降かつ、V05L15R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	session uga memory	セッションのカレントUGAサイズ。V\$SESSTATでのみ有効で、V\$SYSSTATでは無効。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	MEMBYTES	メモリ使用量	
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	opened cursors current	現行のオープン・カーソルの合計数	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	OPENCUR	カーソル数	
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	OS System call CPU time	システム・モードでの実行に費やした合計時間	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	SYSTIME	システムモード時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力。 Oracle12c R2では廃止
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	OS User level CPU time	ユーザー・モードでの実行に費やした合計時間	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	USRTIME	ユーザーモード時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力。 Oracle12c R2では廃止
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	parse count (hard)	解析コール(実解析)の合計数。ハード解析は、作業ヒープおよびその他のメモリー構造体を割り当てた後に解析ツリーを構築することを要求するため、メモリー使用の面から考えて、非常にコストの高い操作である。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	HARDPARSECNT	ハードパース回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	parse count (total)	解析コール(ハード、ソフトおよびdescribe)の合計数。ソフト解析は、共有プール内にすでに存在するオブジェクトで、基礎を形成するオブジェクト上での権限が変更されていないかを確認するためのチェックである。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	TOTPARSECNT	パース回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	parse time cpu / 100.0	解析(ハードおよびソフト)で使用された合計CPU時間(10ミリ秒)	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	PARSECPUTIME	パースCPU時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	parse time elapsed / 100.0	解析の合計経過時間(10ミリ秒)。解析リソースの合計待機時間は、この統計の値から「parse time cpu」の値を引いて算出される。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	PARSETIME	パース時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	physical reads	ディスクから読み込まれたデータ・ブロックの合計数。この統計にはプロセス・プライベート・バッファへの読取りも含まれるため、physical reads directとphysical reads cacheの合計値よりも大きくなることがある。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	PHYRD	物理読込数	

Oracle			IIM					
V\$ビュー	フィールド	オンラインマニュアル記載項目の意味	レコード説明	レコード番号	レコード名	フィールド名	フィールド説明	備考
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	physical reads direct	バッファ・キャッシュをバイパスしてディスクから直接読み込んだ読取りの数。たとえば、高帯域幅での集中的なデータ操作(パラレル実行など)では、ディスク・ブロックを読み取るとき、バッファ・キャッシュがバイパスされる。これによって、転送率が最大化され、バッファ・キャッシュ内に存在する共有データ・ブロックの早期エージングが防止される。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORPHYRDDIR	直接読み込み数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.4以降かつV05L10R1以降を使用している場合1に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	physical reads direct (lob)	LOBについて直接読み取られたバッファの数	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORPHYRDDIRLOB	直接読み込み数(LOB)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.4以降かつV05L10R1以降を使用している場合1に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	physical reads cache	ディスクからバッファ・キャッシュに読み取られたデータ・ブロックの合計数。これは、physical reads統計のサブセットである。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORPHYREADCACHE	ディスクからバッファ・キャッシュに読み取られたデータ・ブロックの合計数	Acquire, Control Centerのバージョン9.3以降かつ、V05L15R1以降を使用している場合1に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	physical writes	ディスクから書き込まれたデータ・ブロックの合計数。この統計値は、physical writes directとphysical writes from cacheの合計値と等しくなる。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	PHYWR	物理書込数	
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	redo buffer allocation retries	REDOバッファ内の領域の割り当てに必要な再試行の合計数。REDOライターの進度が低下するか、またはログ・スイッチなどのイベントが発生しているため、再試行が必要。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	REDOALCRETRIES	REDOバッファ待機回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合1に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	redo entries	REDOログ・バッファにコピーされるREDOエントリの回数	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORRDOENTRY	Redoバッファへ書き込まれたRedoレコード数	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合1に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	redo log space requests	アクティブ・ログ・ファイルが満杯であるため、REDOログ・エントリにディスク領域が割り当てられるまでOracleが待機する必要がある回数。このような領域は、ログ・スイッチの実行により作成される。 ログ・ファイルが、SGAのサイズまたは作業負荷のコミット率に対して小さい場合、問題が発生する可能性がある。Oracleでは、ログ・スイッチが発生する場合、新しいログ・ファイルへの切替え前にコミットされたすべての使用済バッファをディスクに書き込んでおく必要がある。大きなSGAが使用済バッファで一杯であり、REDOログ・ファイルが小さい場合には、DBWRIによって使用済バッファがディスクに書き込まれるまで待機した後にのみ、ログ・スイッチを継続できる。 V\$SESSION_WAIT内のログ・ファイル領域およびログ・ファイル領域スイッチ待機イベントも検査する。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	REDOLOGSPCREQS	Redoログ・エントリのディスク割当て待ち回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合1に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	redo writes	LGWRによるREDOログ・ファイルへの書込みの合計数。「redo blocks written」をこの統計で割った数は、書込みブロック当たりの数と同じ。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	REDOWRITES	REDOログ書込回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合1に出力
V\$SGA	value	SGAコンポーネント・グループが「Database Buffers」のメモリー・サイズ(バイト)	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORSGDBBSZ	データベースバッファのサイズ(Bytes)	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合1に出力
V\$SGA	value	SGAコンポーネント・グループが「Fixed Size」のメモリー・サイズ(バイト)	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORSGFIXED	固定領域のサイズ(Bytes)	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合1に出力
V\$SGA	value	SGAコンポーネント・グループが「Redo Buffers」のメモリー・サイズ(バイト)	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORSGRDBSZ	REDOログバッファのサイズ(Bytes)	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合1に出力
V\$SGA	SUM(value)	ES/1計算値: 全VALUEの合計(バイト)	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORSGTOTSZ	SGAメモリの総量(Bytes)	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合1に出力
V\$SGA	value	SGAコンポーネント・グループが「Variable Size」のメモリー・サイズ(バイト)	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORSGVARSZ	可変領域のサイズ(Bytes)	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合1に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	sorts (disk)	1回以上のディスク書込みを必要としたソート操作数 ディスクへのI/Oを必要とするソートでは、大量のリソースが使用される。初期化パラメータSORT_AREA_SIZEのサイズを大きくしてみる。詳細は、「SORT_AREA_SIZE」を参照してください。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	DISKSORTS	ディスクソート回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合1に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	sorts (memory)	メモリー内で完全に実行され、ディスク書込みを必要としないソート操作数 メモリー・ソートはどうしても必要となきにのみ実行する。通常の場合、ソートは表結合SQL操作での選択条件指定によって実行される。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	MEMSORTS	メモリソート回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合1に出力

Oracle			IIM					
V\$ビュー	フィールド	オンラインマニュアル記載項目の意味	レコード説明	レコード番号	レコード名	フィールド名	フィールド説明	備考
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	table fetch continued row	フェッチ中に検出された連鎖または移行行の数 複数のブロックにわたる行を取り出すと、アクセスする 必要のあるブロック数に応じた係数だけ論理I/O が増加する。エクスポートと再インポートによってこの 問題を回避できる。記憶域パラメータPCTFREEおよび PCTUSEDの設定を評価する。行がデータベース・ ブロックより大きい場合(たとえば、LONGデータ型を 使用して、行が極端に大きい場合)、この問題は 解決できない。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	FETCHCNTROW	フェッチ時の連鎖/移行行検出数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	table scans (direct read)	直接読取りによって(バッファ・キャッシュをバイパスし て)実行された表スキャンの数	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORTBLSCLR	直接読取りスキャン数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L15R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	table scans (long tables)	「表スキャン数(短い表)」に示すように、短い表の基 準を満たさない表として、長い表を定義できる(逆に 短い表も)	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	LONGTBLSCLNS	LONGスキャン数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	table scans (short tables)	オブティマイザ・ヒントがOracleの行ソース・アクセス・ レイヤーまで下降することによって、長い表を逆に短 い表も)定義できる。表でCACHEオプションを設定し ておく必要がある。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	ORTBLSCLST	SHORTスキャン数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L15R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	user calls	ログイン、解析、フェッチ、実行などのユーザー・コ ールの数 アクティビティを判断するとき、ユーザー・コールの RPIコールに対する比率は、ユーザーがOracleに送 信している要求タイプのために生成される内部作業 の取得量を知るための指標となる。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	USRCALLS	ユーザーコール数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	user commits	ユーザー・コミットの数。ユーザーがトランザクシ ョンをコミットする場合、データベース・ブロックに加 えた変更を反映するREDO生成をディスクに書き込む必 要がある。多くの場合、コミットはユーザー・トラン ザクション割合とほぼ同一。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	USRCOMMITS	ユーザーコミット数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSSTAT/V\$STATNAME	user rollbacks	ユーザーがROLLBACK文を手動で発行した、または ユーザーのトランザクション中にエラーが発生した回 数	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	USRROLLBACKS	ユーザーロールバック数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$DISPATCHER	sum(BUSY) / 100	ディスパッチャのビジー合計時間(1/100秒)	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	DISPATCHERTM	ディスパッチャ時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$DISPATCHER	sum(IDLE) / 100	ディスパッチャのアイドル合計時間(1/100秒)	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	DISPIDLETM	ディスパッチャ待機時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SHARED_POOL_RESERVED	request_failures	要求を満たすためのメモリーを検出できなかった回 数。内部フラッシュ(メモリーの解放に使用される)がメ モリー要求を満たさない場合は、エラーORA-04031 が発生する。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	SPREQFAILS	予約プールでの要求失敗回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SHARED_POOL_RESERVED	request_misses	要求を満たすだけのメモリーの空き部分が確保済メ モリー・リストになく、LRUリストからオブジェクトのフ ラッシュを開始した回数	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	SPREQMISSES	予約プールでの要求ミス回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SHARED_SERVER	sum(BUSY) / 100	合計ビジー時間(1/100秒)	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	SHAREDsvRTM	共有サーバ時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SHARED_SERVER	sum(IDLE) / 100	合計アイドル時間(1/100秒)	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	SHSVIDLETM	共有サーバ待機時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SQL	sum(cpu_time) / 1000000	このカーソルが解析、実行およびフェッチのために使 用するCPU時間(マイクロ秒)	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	SQLCPUTM	SQLの合計CPU時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SQL	sum(elapsed_time) / 1000000	解析、実行およびフェッチに対してこのカーソルで使 用される経過時間(マイクロ秒)です。カーソルがパラ レル実行を使用する場合、ELAPSED_TIME_TOTAL は、問合せコーディネータへの時間にすべてのパラ レル問合せスレーブ処理を加えた累積時間です。	Oracle システム	5001	ORSYSDAT	SQLELAPSETM	SQLの合計経過時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle 共有メモリ	5013	ORSGASTAT	DOMAIN	ドメイン名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle 共有メモリ	5013	ORSGASTAT	DBNAME	DB名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SGASTAT	BYTES / 1048576	メモリー・サイズ(バイト)	Oracle 共有メモリ	5013	ORSGASTAT	SIZE	サイズ(MB)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SGASTAT	NAME(下記NAMEのみ対象) *free memory	SGAコンポーネント名	Oracle 共有メモリ	5013	ORSGASTAT	NAME	コンポーネント名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力

Oracle			IIM					
V\$ビュー	フィールド	オンラインマニュアル記載項目の意味	レコード説明	レコード番号	レコード名	フィールド名	フィールド説明	備考
V\$SGASTAT	POOL(下記POOLのみ対象) *java pool *shared pool *large pool	NAMEのメモリーがあるプール: *shared pool: メモリーは共有プールから割り当てられる *large pool: メモリーはラージ・プールから割り当てられる java pool: メモリーはJavaプールから割り当てられる *streams pool: メモリーはStreamsプールから割り当てられる	Oracle 共有メモリ	5013	ORSGASTAT	POOL	プール	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle データファイル	5000	ORFILEIO	DOMAIN	ドメイン名	
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle データファイル	5000	ORFILEIO	DBNAME	DB名	
V\$DATAFILE	BYTES	現行のデータ・ファイルのサイズ(バイト)。アクセスできない場合は0	Oracle データファイル	5000	ORFILEIO	FILESZ	ファイルサイズ	
V\$DATAFILE	NAME	データ・ファイルの名前	Oracle データファイル	5000	ORFILEIO	FILENAME	ファイル名	
V\$FILESTAT	PHYRDS	実行された物理読取り数	Oracle データファイル	5000	ORFILEIO	PHYRD	物理読込数	
V\$FILESTAT	PHYWRTS	DBWRIに書き込みが必要となった回数	Oracle データファイル	5000	ORFILEIO	PHYWR	物理書込数	
V\$FILESTAT	PHYBLKRD	読み込まれた物理ブロックの数	Oracle データファイル	5000	ORFILEIO	PHYBLKRD	ブロック読込数	
V\$FILESTAT	PHYBLKWRT	ディスクに書き込まれたブロックの数。書き込まれたブロックがすべてシングル・ブロックの場合、PHYWRTSに等しい。	Oracle データファイル	5000	ORFILEIO	PHYBLKWR	ブロック書込数	
V\$FILESTAT	ZeroAsNull(READTIM)/100.0	TIMED_STATISTICS/パラメータがtrueの場合、読取りに費やされた時間(1/100秒)。falseの場合は0。	Oracle データファイル	5000	ORFILEIO	RDTIME	読込時間	
V\$FILESTAT	ZeroAsNull(WRITETIM)/100.0	TIMED_STATISTICS/パラメータがtrueの場合、書き込みに費やされた時間(1/100秒)。falseの場合は0。	Oracle データファイル	5000	ORFILEIO	WRTIME	書込時間	
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle ラッチ	5015	ORLATCH	DOMAIN	ドメイン名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle ラッチ	5015	ORLATCH	DBNAME	DB名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$LATCH	sum(GETS)	ラッチが待機可能モードで要求された回数	Oracle ラッチ	5015	ORLATCH	GETS	待機可能モードでの要求回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$LATCH	sum(IMMEDIATE_GETS)	ラッチが待機なしモードで要求された回数	Oracle ラッチ	5015	ORLATCH	IMMGETS	非待機モードでの要求回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$LATCH	sum(IMMEDIATE_MISSES)	待機なしのラッチ要求が失敗(ミス)した回数	Oracle ラッチ	5015	ORLATCH	IMMMISSES	非待機モードでの要求失敗回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$LATCH	sum(MISSES)	ラッチが待機可能モードで要求され、リクエストが待機する必要があった回数	Oracle ラッチ	5015	ORLATCH	MISSES	リクエスト待機回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$LATCH	NAME	ラッチ名	Oracle ラッチ	5015	ORLATCH	NAME	ラッチ名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle ライブラリキャッシュ	5011	ORLIBCH	DOMAIN	ドメイン名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle ライブラリキャッシュ	5011	ORLIBCH	DBNAME	DB名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$LIBRARYCACHE	NAMESPACE	ライブラリ・キャッシュのネームスペース	Oracle ライブラリキャッシュ	5011	ORLIBCH	NAMESPC	ネームスペース	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$LIBRARYCACHE	sum(pins)	このネームスペースのオブジェクトに対してPINが要求された回数	Oracle ライブラリキャッシュ	5011	ORLIBCH	PINS	PIN要求回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$LIBRARYCACHE	sum(reloads)	あるオブジェクトの任意のPIN(ただし、オブジェクト・ハンドルの作成後に実行された最初のPIN以外)。ディスクからそのオブジェクトをロードするように要求する。	Oracle ライブラリキャッシュ	5011	ORLIBCH	RELOADS	リロード要求回数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle ロック	5018	ORLOCK	DOMAIN	ドメイン名	Acquire, Control Centerのバージョン11.20から取得廃止
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle ロック	5018	ORLOCK	DBNAME	DB名	Acquire, Control Centerのバージョン11.20から取得廃止
V\$LOCK	BLOCK	該当するロックが他のプロセスをブロックしているかどうかを示す。可能な値は次のとおりです: 0 - ロックが他のプロセスをブロックしていない。 1 - ロックが他のプロセスをブロックしている。 2 - ロックはローカル・ノードの他のプロセスをブロックしていないが、リモート・ノードのプロセスをブロックしているかどうか不明。この値はOracle Real Application Clusters (Oracle RAC)構成(シングル・インスタンス構成以外)でのみ使用されます。	Oracle ロック	5018	ORLOCK	BLOCK	ロックが別のロックの障害となっている	Acquire, Control Centerのバージョン11.20から取得廃止
V\$LOCK	CTIME	カレント・モードが付与されてから経過した時間	Oracle ロック	5018	ORLOCK	CTIME	カレントモードが付与されてから経過した時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョン11.20から取得廃止

Oracle			IIM					
V\$ビュー	フィールド	オンラインマニュアル記載項目の意味	レコード説明	レコード番号	レコード名	フィールド名	フィールド説明	備考
V\$LOCK	LMODE	セッションがロックを保持するロック・モード: 0 - なし 1 - Null (NULL) 2 - 行共有(SS) 3 - 行排他(SX) 4 - 共有(S) 5 - 共有/行排他(SSX) 6 - 排他(X)	Oracle ロック	5018	ORLOCK	LMODE	セッションがロックを保持するロックモード	Acquire, Control Centerのバージョン11.20から取得 廃止
V\$LOCK	REQUEST	プロセスがロックを要求するロック・モード: 0 - なし 1 - Null (NULL) 2 - 行共有(SS) 3 - 行排他(SX) 4 - 共有(S) 5 - 共有/行排他(SSX) 6 - 排他(X)	Oracle ロック	5018	ORLOCK	REQUEST	プロセスがロックを要求するロックモード	Acquire, Control Centerのバージョン11.20から取得 廃止
V\$LOCK	TYPE (下記TYPEのみ対象) ・TM ・TX	ユーザーまたはシステム・ロックの型 ユーザー型のロックは、ユーザー・アプリケーション によって取得される。他のプロセスの障害となってい るプロセスは、これらのロックの1つを保持している場 合がある。ユーザー型のロックは、次のとおり。 TM - DMLエンキュー TX - トランザクション・エンキュー UL - ユーザーが提供	Oracle ロック	5018	ORLOCK	TYPE	ロックタイプ	Acquire, Control Centerのバージョン11.20から取得 廃止
DBA_OBJECTS	OBJECT_NAME	オブジェクト名	Oracle ロック	5018	ORLOCK	OBJNAME	オブジェクト名	Acquire, Control Centerのバージョン11.20から取得 廃止
V\$LOCK	SID	ロックを保持または取得しているセッションの識別子	Oracle ロック	5018	ORLOCK	SESSID	セッションID	Acquire, Control Centerのバージョン11.20から取得 廃止
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle 共有サーバメッセージ キュー	5014	ORQUEUE	DOMAIN	ドメイン名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle 共有サーバメッセージ キュー	5014	ORQUEUE	DBNAME	DB名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$QUEUE	QUEUED	キュー内の項目の数	Oracle 共有サーバメッセージ キュー	5014	ORQUEUE	QUEUED	項目数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$QUEUE	TOTALQ	これまでキューに入れられた項目の合計数	Oracle 共有サーバメッセージ キュー	5014	ORQUEUE	TOTALQ	合計項目数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$QUEUE	TYPE	キューのタイプ: ・COMMON - サーバーが処理 DISPATCHER	Oracle 共有サーバメッセージ キュー	5014	ORQUEUE	TYPE	タイプ	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$QUEUE	WAIT / 100	このキュー内の全項目の待機時間の合計(1/100 秒)。1項目当たりの平均待機時間を算出するには、 TOTALQで割る。	Oracle 共有サーバメッセージ キュー	5014	ORQUEUE	WAITTM	合計待機時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle ディクショナリキャッシュ	5012	ORROWCH	DOMAIN	ドメイン名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle ディクショナリキャッシュ	5012	ORROWCH	DBNAME	DB名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$ROWCACHE	sum(gets)	データ・オブジェクトに関する情報要求の合計件数	Oracle ディクショナリキャッシュ	5012	ORROWCH	GETS	データオブジェクト情報要求数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$ROWCACHE	sum(getmisses)	結果的にキャッシュ・ミスになったデータ要求数	Oracle ディクショナリキャッシュ	5012	ORROWCH	GETMISSES	キャッシュミスしたデータ要求数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$ROWCACHE	PARAMETER	データ・ディクショナリ・キャッシュ内のエントリの数を 決定する初期化パラメータの名前	Oracle ディクショナリキャッシュ	5012	ORROWCH	PARAM	パラメータ名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつ V05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle セグメント情報	5007	ORSEG	DOMAIN	ドメイン名	
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle セグメント情報	5007	ORSEG	DBNAME	DB名	
dba_segments	sum(bytes)	セグメントのバイト単位のサイズ	Oracle セグメント情報	5007	ORSEG	SEGBYTE	セグメントサイズ(Bytes)	
dba_segments	extents	セグメントに割り当てられたエクステントの数	Oracle セグメント情報	5007	ORSEG	SEGEXT	エクステント数	
dba_segments	max_extents	セグメント内で使用できるエクステントの最大数	Oracle セグメント情報	5007	ORSEG	SEGMAX	最大エクステント数	
dba_segments	segment_name	セグメントがある場合、その名前	Oracle セグメント情報	5007	ORSEG	SEGNAME	セグメント名	
dba_segments	owner	セグメント所有者のユーザー名	Oracle セグメント情報	5007	ORSEG	SEGOWNER	オーナー名	

Oracle			IIM					
V\$ビュー	フィールド	オンラインマニュアル記載項目の意味	レコード説明	レコード番号	レコード名	フィールド名	フィールド説明	備考
dba_segments	segment_type	セグメントのタイプ: NESTED TABLE TABLE TABLE PARTITION CLUSTER LOBINDEX INDEX INDEX PARTITION LOBSEGMENT TABLE SUBPARTITION INDEX SUBPARTITION LOB PARTITION LOB SUBPARTITION ROLLBACK TYPE2 UNDO DEFERRED ROLLBACK TEMPORARY CACHE SPACE HEADER UNDEFINED	Oracle セグメント情報	5007	ORSEG	SEGTYPE	セグメント種別	
dba_segments	tablespace_name	セグメントが設定されている表領域の名前	Oracle セグメント情報	5007	ORSEG	TSNAME	テーブルスペース名	
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle セッション情報	5002	ORSESS	DOMAIN	ドメイン名	
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle セッション情報	5002	ORSESS	DBNAME	DB名	
V\$SESSION	SID	セッション識別子	Oracle セッション情報	5002	ORSESS	SESSID	セッションID	
V\$SESSION	USERNAME ('-' set to '')	Oracleユーザー名	Oracle セッション情報	5002	ORSESS	ORACLEUSR	Oracleユーザ名	
V\$SESSION	OSUSER	オペレーティング・システムのクライアント・ユーザー名	Oracle セッション情報	5002	ORSESS	OSUSR	OSユーザ名	
V\$PROCESS	SPID	オペレーティング・システムのプロセス識別子。 Oracleマルチプロセス/マルチスレッド機能はUNIXシステムで利用できる。 Oracleマルチプロセス/マルチスレッド機能が有効化されている場合、RDBMSプロセスはオペレーティング・システムのプロセスで実行されているスレッドにマップされ、SPID識別子はRDBMSプロセスに対して一意ではない。 Oracleマルチプロセス/マルチスレッド機能がUNIXシステムで有効化されていない場合、SPID識別子はRDBMSプロセスに対して一意。	Oracle セッション情報	5002	ORSESS	OSPID	OS PID	
V\$PROCESS	PROGRAM	進行中のプログラム	Oracle セッション情報	5002	ORSESS	OSPROG	OSプログラム名	
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle セッションサマリ	5003	ORSESSUM	DOMAIN	ドメイン名	
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle セッションサマリ	5003	ORSESSUM	DBNAME	DB名	
V\$SESSION	SID	セッション識別子	Oracle セッションサマリ	5003	ORSESSUM	SESSID	セッションID	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	CPU used by this session / 100.0	ユーザー・コールの開始から終了までにセッションが使用するCPU時間(10ミリ秒)。ユーザー・コールが10ミリ秒以内に完了する場合、ユーザー・コールの開始および終了時刻は同じになり、この統計には0ミリ秒が追加される。	Oracle セッションサマリ	5003	ORSESSUM	CPUSEC	プロセッサ使用時間(秒)	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	session uga memory	セッションのカレントUGAサイズ。V\$SESSTATでのみ有効で、V\$SYSSTATでは無効。	Oracle セッションサマリ	5003	ORSESSUM	MEMBYTES	メモリ使用量	
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	DOMAIN	ドメイン名	
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	DBNAME	DB名	
V\$SESSION	SID	セッション識別子	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	SESSID	セッションID	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	consistent gets	ブロックの読取り一貫性が要求された回数。	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	CONGET	コンシステントGET数	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	db block gets	CURRENTブロックが要求された回数 関連項目:「consistent gets」を参照。	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	DBGET	DBブロックGET数	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	計算値 基データ: db block gets+consistent gets	ES/I計算値: 論理I/O数	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	TTLLOGIO	論理I/O数	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	physical writes	ディスクから書き込まれたデータ・ブロックの合計数。この統計値は、physical writes directとphysical writes from cacheの合計値と等しくなる。	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	PHYWR	物理書込数	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	physical reads	ディスクから読み込まれたデータ・ブロックの合計数。この統計にはプロセス・プライベート・バッファへの読取りも含まれるため、physical reads directと physical reads cacheの合計値よりも大きくなることもある。	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	PHYRD	物理読込数	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	計算値 基データ: physical reads+physical writes	ES/I計算値: 物理I/O数	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	TTLPHYIO	物理I/O数	

Oracle			IIM					
V\$ビュー	フィールド	オンラインマニュアル記載項目の意味	レコード説明	レコード番号	レコード名	フィールド名	フィールド説明	備考
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	physical reads direct	バッファ・キャッシュをバイパスしてディスクから直接読み込んだ読取りの数。たとえば、高帯域幅での集中的なデータ操作(パラレル実行など)では、ディスク・ブロックを読み取るとき、バッファ・キャッシュがバイパスされる。これによって、転送率が最大化され、バッファ・キャッシュ内に存在する共有データ・ブロックの早期エージングが防止される。	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	RDDIR	直接読み込み数	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	physical reads direct (lob)	LOBについて直接読み取られたバッファの数	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	RDDIRLOB	直接読み込み数(LOB)	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	execute count	SQL文を実行するコール(ユーザー・コールおよび再帰コール)の合計数	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	OREXCNT	SQL実行コール数	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L15R1以降を使用している場合に出力
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	parse count (hard)	解析コール(実解析)の合計数。ハード解析は、作業ヒープおよびその他のメモリー構造体を割り当てた後に解析ツリーを構築することを要求するため、メモリー使用の面から考えて、非常にコストの高い操作である。	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	ORPARCNTHRD	ハードパース回数	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L15R1以降を使用している場合に出力
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	parse count (total)	解析コール(ハード、ソフトおよびdescribe)の合計数。ソフト解析は、共有プール内にすでに存在するオブジェクトで、基礎を形成するオブジェクト上での権限が変更されていないかを確認するためのチェックである。	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	ORPARCNTTOT	パース回数	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L15R1以降を使用している場合に出力
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	parse time cpu / 100.0	解析(ハードおよびソフト)で使用された合計CPU時間(10ミリ秒)	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	PARSECPUTIME	パースCPU時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L15R1以降を使用している場合に出力
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	parse time elapsed / 100.0	解析の合計経過時間(10ミリ秒)。解析リソースの合計待機時間は、この統計の値から「parse time cpu」の値を引いて算出される。	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	PARSETIME	パース時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L15R1以降を使用している場合に出力
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	sorts (disk)	1回以上のディスク書き込みを必要としたソート操作数 ディスクへのI/Oを必要とするソートでは、大量のリソースが使用される。初期化パラメータ SORT_AREA_SIZEのサイズを大きくしてみる。詳細は、「SORT_AREA_SIZE」を参照してください。	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	ORSORTSDSK	ディスクソート回数	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L15R1以降を使用している場合に出力
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	sorts (memory)	メモリー内で完全に実行され、ディスク書き込みを必要としないソート操作数 メモリー・ソートはどうしても必要なときにのみ実行する。通常の場合、ソートは表結合SQL操作での選択条件指定によって実行される。	Oracle セッションI/O	5004	ORSESSIO	ORSORTSMEM	メモリスート回数	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L15R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle テーブルスキャン	5005	ORTABSCN	DOMAIN	ドメイン名	
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle テーブルスキャン	5005	ORTABSCN	DBNAME	DB名	
V\$SESSION	SID	セッション識別子	Oracle テーブルスキャン	5005	ORTABSCN	SESSID	セッションID	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	table scans (long tables)	「表スキャン数(短い表)」に示すように、短い表の基準を満たさない表として、長い表を定義できる(逆に短い表も)	Oracle テーブルスキャン	5005	ORTABSCN	LONGSCAN	LONGスキャン数	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	table scan blocks gotten	スキャン操作中に、Oracleは各行を順番に取り出す。この統計情報は、スキャン中に検出されたブロックの数をカウントする。 この統計情報は、スキャンのためにバッファ・キャッシュから取得する必要があったデータベース・ブロックの数を示す。このパラメータの値をconsistent getsの値と比較すると、スキャンに関連する読取り一貫性アクティビティの割合が判明する。	Oracle テーブルスキャン	5005	ORTABSCN	SCANBLK	スキャンブロック数	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	table scan rows gotten	スキャン操作中に処理される行数	Oracle テーブルスキャン	5005	ORTABSCN	SCANROW	スキャン行数	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	table scans (short tables)	オブティマイザ・ヒントがOracleの行ソース・アクセス・レイヤーまで下降することによって、長い表を(逆に短い表も)定義できる。表でCACHEオプションを設定しておく必要がある。	Oracle テーブルスキャン	5005	ORTABSCN	SHORTSCAN	SHORTスキャン数	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	計算値 基データ:table scans (long tables)+table scans (short tables)	ES/1計算値:総スキャン数	Oracle テーブルスキャン	5005	ORTABSCN	TTLSCAN	総スキャン数	
System Managerでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle REDOログ	5006	ORREDO	DOMAIN	ドメイン名	
System Managerでの設定内容	-	DB名	Oracle REDOログ	5006	ORREDO	DBNAME	DB名	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	SID	セッション識別子	Oracle REDOログ	5006	ORREDO	SESSID	セッションID	
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	redo size	生成されたREDOの合計バイト数	Oracle REDOログ	5006	ORREDO	SIZE	REDOバッファ使用量	

Oracle			IIM					
V\$ビュー	フィールド	オンラインマニュアル記載項目の意味	レコード説明	レコード番号	レコード名	フィールド名	フィールド説明	備考
V\$SESSTAT/V\$STATNAME	ZeroAsNull(redo log space wait time)	<p>REDOログ・バッファ内の使用可能な空き領域を待機した合計時間(100分の1秒単位)。「redo log space requests」を参照。</p> <p>アクティブ・ログ・ファイルが満杯であるため、REDOログ・エントリにディスク領域が割り当てられるまでOracleが待機する必要のある回数。このような領域は、ログ・スイッチの実行により作成される。</p> <p>ログ・ファイルが、SGAのサイズまたは作業負荷のコミット率に対して小さい場合、問題が発生する可能性がある。Oracleでは、ログ・スイッチが発生する場合、新しいログ・ファイルへの切替え前にコミットされたすべての使用済バッファをディスクに書き込んでおく必要がある。大きなSGAが使用済バッファで一杯であり、REDOログ・ファイルが小さい場合には、DBWRIによって使用済バッファがディスクに書き込まれるまで待機した後にのみ、ログ・スイッチを継続できる。</p> <p>V\$SESSION_WAIT内のログ・ファイル領域およびログ・ファイル領域スイッチ待機イベントも検査する。</p>	Oracle REDOログ	5006	ORREDO	LGWT	REDOバッファ待ち時間	
System Managerでの設定内容	–	ドメイン名	Oracle セッション待機イベント	5017	ORSESEVENT	DOMAIN	ドメイン名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	–	DB名	Oracle セッション待機イベント	5017	ORSESEVENT	DBNAME	DB名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SESSION_EVENT/V\$SESSION_WAIT	<p>EVENT (下記EVENTは対象外)</p> <ul style="list-style-type: none"> •lock element cleanup •pmon timer •rdbms ipc message •smon timer •SQL*Net message from client •SQL*Net break/reset to client •SQL*Net message to client •SQL*Net more data to client •dispatcher timer •Null event •parallel query dequeue wait •parallel query idle wait – Slaves •pipe get •PL/SQL lock timer •slave wait •virtual circuit status •WMON goes to sleep 	<p>待機イベントの名前</p> <p>関連項目: 「Oracle待機イベント」を参照。</p>	Oracle セッション待機イベント	5017	ORSESEVENT	NAME	イベント名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SESSION_EVENT/V\$SESSION_WAIT	TIME_WAITED	セッションによるイベントの合計待機時間(1/100秒)	Oracle セッション待機イベント	5017	ORSESEVENT	WAITTM	待機時間(秒)	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SESSION_EVENT/V\$SESSION_WAIT	SID	セッションのID	Oracle セッション待機イベント	5017	ORSESEVENT	SESSID	セッションID	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	–	ドメイン名	Oracle 待機イベント	5016	ORSYSEVENT	DOMAIN	ドメイン名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	–	DB名	Oracle 待機イベント	5016	ORSYSEVENT	DBNAME	DB名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSTEM_EVENT/V\$EVENT_NAME	<p>EVENT(下記EVENTのみ対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> •buffer busy waits •log file switch completion 	待機イベントの名前	Oracle 待機イベント	5016	ORSYSEVENT	NAME	イベント名	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
V\$SYSTEM_EVENT/V\$EVENT_NAME	TOTAL_WAITS	イベントの合計待機数	Oracle 待機イベント	5016	ORSYSEVENT	TOTWAITS	合計待機数	Acquire, Control Centerのバージョンが8.7以降かつV05L06R1以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	–	ドメイン名	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	DOMAIN	ドメイン名	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
System Managerでの設定内容	–	DB名	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	DBNAME	DB名	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
dba_tablespace	block_size	表領域のブロック・サイズ(バイト)	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	BLOCKSIZE	ブロックサイズ(Bytes)	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
dba_tablespace	Contents	<p>表領域の内容:</p> <p>UNDO</p> <p>LOST WRITE PROTECTION</p> <p>PERMANENT</p> <p>TEMPORARY</p>	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	CONTENTS	表領域の内容	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力。 「LOST WRITE PROTECTION」については、Acquire, Control Centerのバージョンが11.20以降かつV05L20R2以降を使用している場合に出力。
dba_tablespace	initial_extent	デフォルトの初期エクステント・サイズ(バイト単位)。	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	INITEXT	初期エクステントサイズ(Block)	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
dba_tablespace	max_extents	エクステントのデフォルトの最大数	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	MAXEXT	最大エクステント数	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力

Oracle			IIM					
V\$ビュー	フィールド	オンラインマニュアル記載項目の意味	レコード説明	レコード番号	レコード名	フィールド名	フィールド説明	備考
dba_data_files or dba_temp_files	bytes / 1048576 (or user_bytes / 1048576)	バイト単位のファイル・サイズ	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	FREEMBYTES	空きサイズ(MB)	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
dba_tablespaces	min_extents	エクステントのデフォルトの最小数。	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	MINEXT	最小エクステント数	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
v\$sort_segment	max_sort_blocks	個のソートで使用されたブロックの最大数	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	MAXSORTBLOCKS	個々のソートで使用されたブロックの最大数	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
dba_data_files or dba_temp_files	bytes / 1048576	バイト単位のファイル・サイズ	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	TTLMBYTES	総サイズ(MB)	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
v\$sort_segment	max_used_blocks	すべてのソートで使用されたブロックの最大数	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	MAXUSED_BLOCKS	すべてのソートで使用されたブロックの最大数	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
v\$sort_segment	max_blocks	今までに使用されたブロックの最大数	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	MAXBLOCKS	今までに使用されたブロックの最大数	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
dba_data_files	tablespace_name	ファイルが属する表領域の名前	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	TSNAME	テーブルスペース名	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
dba_tablespaces	next_extent	デフォルトの増分エクステント・サイズ(バイト単位)。	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	NEXTTEXT	増分エクステントサイズ(Block)	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
dba_tablespaces	pct_increase	エクステント・サイズのデフォルトの増加の割合	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	INCPG	エクステントサイズ増加率(%)	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
v\$sort_segment	used_blocks	アクティブ・ソートに割り当てられたブロック数	Oracle テーブルスペース	5008	ORTS	USED_BLOCKS	アクティブ・ソートに割り当てられたブロック数	Acquire, Control Centerのバージョンが9.2以降かつV05L12R2以降を使用している場合に出力
旧バージョンのControl Centreでの設定内容	-	ドメイン名	Oracle テーブル	5010	ORTBSP	DOMAIN	ドメイン名	
旧バージョンのControl Centreでの設定内容	-	DB名	Oracle テーブル	5010	ORTBSP	DBNAME	DB名	
dba_tables	現在のAcquireでは収集不可(7.21SP1まで)	テーブル名	Oracle テーブル	5010	ORTBSP	TBNAME	テーブル名	
dba_tables	現在のAcquireでは収集不可(7.21SP1まで)	データサイズ	Oracle テーブル	5010	ORTBSP	TBBYTES	データサイズ	
v\$parameter	db_domain	ドメイン名	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	DOMAIN	ドメイン名	csqlplusによる取得項目 (V04L07R1以降)
v\$parameter	db_name	DB名	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	DBNAME	DB名	csqlplusによる取得項目 (V04L07R1以降)
dba_tablespaces	tablespace_name	表領域の名前	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	TSNAME	表領域名	csqlplusによる取得項目 (V04L07R1以降)
dba_tablespaces	initial_extent	デフォルトの初期エクステント・サイズ(バイト単位)。	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	INITEXT	初期エクステントサイズ(Block)	csqlplusによる取得項目 (V04L07R1以降)
dba_tablespaces	next_extent	デフォルトの増分エクステント・サイズ(バイト単位)。	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	NEXTTEXT	増分エクステントサイズ(Block)	csqlplusによる取得項目 (V04L07R1以降)
dba_tablespaces	min_extents	エクステントのデフォルトの最小数。	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	MINEXT	最小エクステント数	csqlplusによる取得項目 (V04L07R1以降)
dba_tablespaces	max_extents	エクステントのデフォルトの最大数	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	MAXEXT	最大エクステント数	csqlplusによる取得項目 (V04L07R1以降)
dba_tablespaces	pct_increase	エクステント・サイズのデフォルトの増加の割合	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	INCPG	エクステントサイズ増加率	csqlplusによる取得項目 (V04L07R1以降)
dba_data_files	sum(bytes)	バイト単位のファイル・サイズ	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	TTLBYTES	総バイト数	csqlplusによる取得項目 (V04L07R1以降)
dba_free_space	sum(bytes)	エクステントのサイズ(バイト)	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	FREEBYTES	空きバイト数	csqlplusによる取得項目 (V04L07R1以降)
dba_tablespaces	block_size	表領域のブロック・サイズ(バイト)	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	BLOCKSIZE	ブロックサイズ(Bytes)	csqlplusによる取得項目 (V04L12R1以降)
dba_tablespaces	contents	表領域の内容: UNDO LOST WRITE PROTECTION PERMANENT TEMPORARY	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	CONTENTS	表領域の内容	csqlplusによる取得項目 (V04L12R1以降、「LOST WRITE PROTECTION」についてはV05L20R2以降)
v\$sort_segment	used_blocks	アクティブ・ソートに割り当てられたブロック数	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	USED_BLOCKS	アクティブ・ソートに割り当てられたブロック数	csqlplusによる取得項目 (V04L12R1以降)
v\$sort_segment	max_blocks	今までに使用されたブロックの最大数	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	MAXBLOCKS	今までに使用されたブロックの最大数	csqlplusによる取得項目 (V05L01R2以降)
v\$sort_segment	max_used_blocks	すべてのソートで使用されたブロックの最大数	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	MAXUSED_BLOCKS	すべてのソートで使用されたブロックの最大数	csqlplusによる取得項目 (V05L01R2以降)
v\$sort_segment	max_sort_blocks	個のソートで使用されたブロックの最大数	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	MAXSORTBLOCKS	個々のソートで使用されたブロックの最大数	csqlplusによる取得項目 (V05L01R2以降)
-	-	-	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	AGENTVER	データ取得に使用したエージェント識別子	csqlplusによる取得項目 (V05L10R1以降)
dba_undo_extents	bytes (status「ACTIVE」が対象)	エクステントのサイズ(バイト)	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	ACTIVEBYTES	ACTIVEステータスのエクステントの合計バイト数	csqlplusによる取得項目 (V05L10R1以降)
dba_undo_extents	bytes (status「UNEXPIRED」が対象)	エクステントのサイズ(バイト)	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	UNEXPIREDBYTES	UNEXPIREDステータスのエクステントの合計バイト数	csqlplusによる取得項目 (V05L10R1以降)
dba_undo_extents	bytes (status「EXPIRED」が対象)	エクステントのサイズ(バイト)	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	EXPIREDBYTES	EXPIREDステータスのエクステントの合計バイト数	csqlplusによる取得項目 (V05L10R1以降)
dba_data_files	maxbytes	ファイルの最大サイズ(バイト)	Oracle テーブルスペース(csqlplus)	5009	X_ORTBSP	MAXBYTES	最大サイズ(Bytes)	csqlplusによる取得項目 (V05L10R1以降)